

3D 空間の中で事業計画を支援する PanasonicVR

土田 慎 パナソニック株式会社エコソリューションズ社 参事

要約 近年のICT (Information Communication Technology) の進歩により、建築計画がいつでも、どこでも、誰にでもわかり易く事前検討出来る時代になった。今回は事業者サイドに立ち、グラフィックに特化することにより、多くの関係者を専門性が無くても計画段階から検討に参画できるようにし好評を得ている PanasonicVR (以下 VR) を紹介する。VR は単に計画図面を可視化するソフトウェアの販売ではない。事業者のその時々抱えている課題をビジュアル化することで様々な意見を引き出し合意形成を促し、結果、失敗を未然に防ぎより良い施設の建築や運営を手助けする役務の提供を行うことをいう。本稿では様々な関係者が多岐にわたり合意形成が難しい、病院の事例を紹介するが学校・ホテル・商業施設その他多くの施設でVRが用いられている。

1. はじめに

パナソニックは「ideas for life」のブランドスローガンの下、多くの製品・サービスを提供している。その一つに「みえる化」というテーマがある。難解な問題でも、頭で考えるだけでは無く、可視化して目で見るとはじめて気づくという場合がある。

PanasonicVR (以下 VR) も「みえる化」テーマの課題解決サービスの一つである。

今回は多数の関係者が混在するため、意見集約があまりになり、出来上がって運用しはじめてからフラストレーションが出てくるケースが特に多い病院を事例で紹介する。但しVRは学校・商業施設・ホテルその他多数の施設で用いられている。

ジは異なるだろう。これはほんの一例に過ぎない。実際にはさらに膨大な資料(図面やパースなど)があり空間イメージ共有は困難を極めることになる。

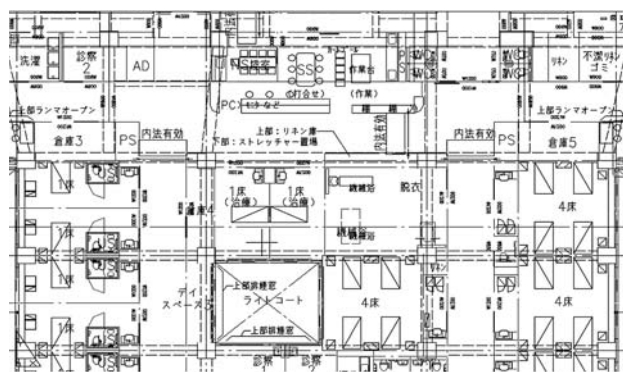


図1

これまでの多くの場合、空間イメージの共有がなされないまま設計終了・竣工・運用開始がなされていた。

ここから事前に描いていた空間イメージと違うというストレスの蓄積が始まる。動線の複雑さ、案内サインの難しさなど中には深刻な問題もある。

2. 現状

例えばここに一枚の図面がある(図1)。スタッフステーション・通路・病室などが並ぶ一般的によくある病院の図面である。しかしこの図面から関係者皆が共有の空間イメージを持つことは出来るだろうか。床・壁の色、置かれる什器、スタッフステーションの腰壁の高さ、手すりの高さや形状などこの一枚の図面の中でさえ様々なファクターがあり、各自思い描くイメー

3. VRによる事前可視化で問題解決

VRは図面を基にパソコンの中に、現在設計中の完成イメージ空間を事前に作り、映像で同じデータを複数の関係者の間で見てもらう事が可能となる。事前可